



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

4. 「ひだ国府紅しだれ」台木を用いた県主要モモ品種の生育特性

[要約]

モモの主要品種に「ひだ国府紅しだれ」台木を用いると、慣行台木の「筑波 5 号」を用いた場合と比べて、樹勢がやや弱くなる傾向がある。また、果実品質については、穂木品種によって傾向が異なる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

近年、凍害が原因と思われる樹勢衰弱・枯死樹の発生が県内産地で増加傾向にある。その対策として、耐凍性が高いとされる台木「ひだ国府紅しだれ」の利用が有望と考えられる。そこで、県主要品種「白鳳」、「おかやま夢白桃」、「白麗」及び新品種「さきがけはくとう」に、「ひだ国府紅しだれ」台木を用いた場合の生育特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. いずれの穂木品種も「ひだ国府紅しだれ」台では、「筑波 5 号」台と比べて、新梢の伸長停止が早く、徒長枝や長果枝の発生率が低く、樹勢がやや弱い傾向にある。また、樹冠面積は小さい傾向にある（図 1、2）。
2. 平均収穫日は、「ひだ国府紅しだれ」台が「筑波 5 号」台よりも「白鳳」でやや早く、その他の穂木品種もやや早い（表 1）。
3. 果実重は、穂木品種によって台木間で傾向が異なる（表 1）。
4. 糖度は、「ひだ国府紅しだれ」台が「筑波 5 号」台より高い穂木品種が多い（表 1）。
5. 生理障害については、「ひだ国府紅しだれ」台では、「筑波 5 号」台と比べて、果梗離脱果率が低い傾向にある穂木品種が多い（表 1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 上記以外の穂木品種に「ひだ国府紅しだれ」台木を利用する場合、樹勢がやや抑制できると考えられるが、樹勢や果実品質は穂木品種によって異なると考えられる。
2. 「ひだ国府紅しだれ」台苗木は、岡山県内でも市販されている。
3. 本試験は、農業研究所圃場（典型台地褐色森林土）において、農業研究所の慣行栽培を行った結果である。



[具体的データ]

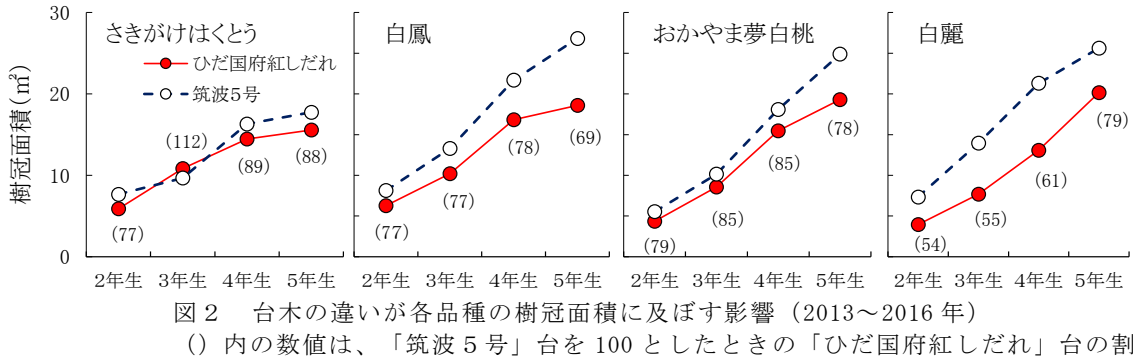
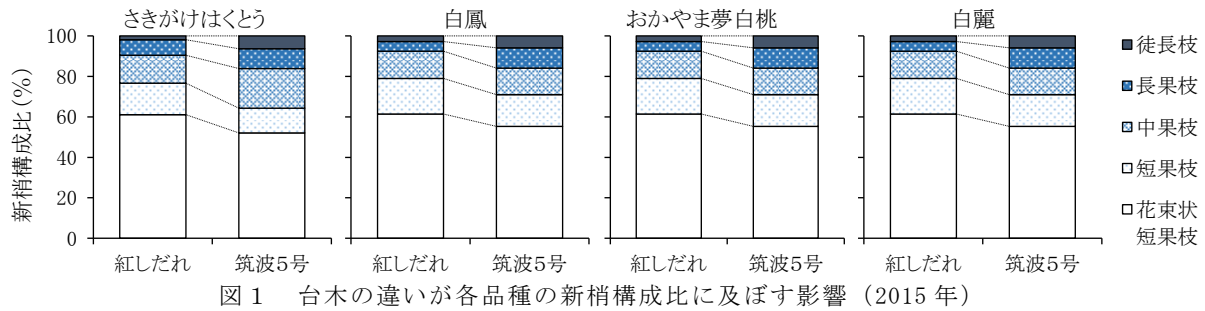


表 1 台木の違いが各品種の収穫日、果実品質、生理障害の発生に及ぼす影響 (2013~2016年)

穂木	処理区 ^z 台木	収穫日 (月/日)	収量 ^y (kg/樹)	果実重 (g)	糖度 (Brix)	硬度 ^y (kgf)	渋味 (0~4) ^x	核割れ (%)	赤肉症 ^y (0~4) ^x	水浸状 果肉 褐変症 ^y (0~4) ^x	果梗 離脱果 (%)	果梗内
												亀裂 小果 (%)
さきがけ はくとう	紅しだれ	6/29 (-0.4) ^y	46.8 (113)	246	11.9	0.85	0.9	26	0.2	0.0	21	-
	筑波5号	6/29	41.3	243	11.1	0.92	1.1	28	0.2	0.0	44	-
	有意性 ^w	ns	-	ns	ns	ns	ns	ns	ns	ns	**	
白鳳	紅しだれ	7/15 (-0.8)	46.6 (71)	251	13.8	1.03	0.8	14	2.0	0.0	9	-
	筑波5号	7/16	66.0	231	12.8	1.04	0.8	8	1.7	0.0	10	-
	有意性 ^w	**	-	**	**	ns	ns	*	ns	ns	ns	
おかやま 夢白桃	紅しだれ	8/3 (1.0)	73.6 (86)	380	13.9	0.94	0.5	11	0.2	0.0	7	1
	筑波5号	8/2	85.5	412	13.5	0.96	0.9	31	0.3	0.0	12	1
	有意性 ^w	ns	-	*	ns	ns	**	**	ns	ns	ns	ns
白麗	紅しだれ	8/6 (-2.0)	54.5 (64)	307	14.3	0.97	0.5	8	0.2	0.1	15	28
	筑波5号	8/8	85.3	310	13.9	1.06	0.3	2	0.2	0.2	28	33
	有意性 ^w	ns	-	ns	ns	ns	ns	**	ns	ns	ns	ns

^z 台木の「紅しだれ」は「ひだ国府紅しだれ」

^y 収量は2016年のデータ、硬度、赤肉症、水浸状果肉褐変症は2014~2016年の平均

^x 0:無、1:微、2:少、3:中、4:多の5段階評価

^w 台木と年次による分散分析により、**は1%水準、*は5%水準で台木間に有意差あり、nsは有意差なし

^v () 内の数値については、収穫日は「筑波5号」台との日数の差、収量は「筑波5号」台を100としたときの割合

[その他]

研究課題名：気象変動に対応した春季のモモの樹勢衰弱・枯死回避技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2012~2016年度

研究担当者：荒木有朋、藤井雄一郎、片沼慶介

関連情報等：1) 藤井ら (2014) 近畿中国四国農研、24:35-42

2) [平成28年度試験研究主要成果、17-18](#)